

平成30年度 勝浦町教育基本方針

勝浦町教育委員会

【教育基本方針】

〒 一人ひとりを大切にする教育の充実、教育環境の充実、伝統文化の継承 〒

学校教育においては、「人づくりがまちづくりの基本」をコンセプトに、次世代を担う子どもたちに確かな学力、体力、郷土を愛する豊かな心を育成するため、指導体制の充実、郷土資源の活用、家庭・学校・地域の連携強化を図り、教育環境の向上を目指す。

生涯学習においては、文化やスポーツなどの活動人口が減少していることから、一人ひとりの活動意欲を高める学習環境の向上、伝統文化の継承、スポーツや文化における世代間交流の活性化を目指す。

【基本方針に基づく施策】

(1)学校教育の充実

①特色ある学校教育の充実

- ・学習指導要領に基づく教育の実施
- ・読書活動の充実
- ・外国語教育の推進
- ・心の教育・人権教育の充実
- ・個に応じた指導の実施
- ・国・県学力調査の活用
- ・情報教育の充実
- ・安全・食育・主権者等教育の推進ほか

②地域との連携の充実

- ・家庭・学校・地域の連携・協力
- ・家庭学習の推進
- ・地域人材・資源の活用

③教育環境の向上

- ・教職員の資質・指導力向上
- ・施設整備の充実
- ・小・中学校の連携強化
- ・高校進学への支援

(2)生涯学習の推進

①学習・文化・スポーツ活動の活性化

- ・総合型地域スポーツクラブの運営支援
- ・施設の機能向上と利用促進
- ・活動組織の活性化
- ・郷土文化の継承ほか

②人権教育の推進

- ・人権教育推進協議会の運営
- ・相談支援の実施ほか

③青少年健全育成の推進

- ・地区活動の充実
- ・青少年健全育成センター及び専門補導員との連携ほか
- ・補導パトロールの実施

【平成30年度の重要事項】

(1)学校教育ICT設備の整備業務（かつうら創生総合戦略関連）

今の子どもたちが社会人となる時代は、全てがインターネットにつながるIoT社会が到来する。次期学習指導要領に、不可欠な条件整備の一つに「ICT環境の整備」が挙げられている。さらに、「全ての学習の基盤となる力」として、「言語能力(読解力等)」の次に「情報活用能力(プログラミング的思考やICTを活用する力を含む)」が挙げられている。このような情報化社会に対応可能な人材育成に取り組むため、ICT設備の整備と平行して教職員校務支援のシステム設計にも取り掛かる。なお、教職員校務支援システムについては、県教委の全国統一システム導入計画に参画していく。

(2)阿南市方面への通学用交通手段の確保（かつうら創生総合戦略関連）

徳島県立高等学校普通科の通学区域内でありながら、公共交通機関の空白区域である阿南市方面に通学する生徒の交通手段確保策について、前年度途中から、保護者会がタクシーを利用して実施する方式に戻し、補助金の支出で支援していく。

(3)外国語指導助手(ALT)のサポート体制強化(勝浦町総合計画後期基本計画関連)

小学校では平成32年度、中学校では平成33年度から全面実施される次期学習指導要領の柱として、小学校では「外国語活動の学習開始学年引き下げ及び5・6年生での英語教科化」、中学校では「原則、英語の授業は英語で行う」と記されている。

児童生徒の英語力向上と、教師の語学力・指導力向上を旨とし、昨年からは外国語指導助手(ALT)を小・中に1人ずつ2名体制に増員し、さらなる外国語教育の強化・推進を図っていく。

(4)学習環境の充実(両小学校への空調設備整備に向けて)

近年の環境変化は目まぐるしく、特に猛暑や豪雨といった夏季の気候変動には著しいものがあり、学校における学習環境にも大きな変化をもたらしている。一方では、次期学習指導要領で小学校の中・高学年では35時間/年間の授業時間増加が決定しており、時間創造が全国的な課題となっている。こういった課題解決に向け、また、児童の学習環境の一層の整備に向け、各教室の空調整備の充実に取り組む。本年度は空調設備設置工事を発注し、夏休み中の完成を目指す。併せて、生比奈小学校においてはトイレ改修工事、横瀬小学校においてはガラス等飛散防止対策事業を実施する。

(5)全国学力・学習状況調査並びに徳島県学力ステップアップテストの活用

学力調査の結果分析を行い、子どもたちの学力のより一層向上策に活用する。

- ・全国学力・学習状況調査(文部科学省)は年一回、小学6年生を対象に国語・算数、中学3年生を対象に国語・数学で実施される。
- ・徳島県学力ステップアップテスト(徳島県教育委員会)は年2回、小学4・5年生(2回目は6年生を追加)を対象に国語・算数・質問紙、中学1・2年生を対象に国語・数学・質問紙で実施される。